

「通貨先物の上場について」に寄せられたパブリック・コメントの結果について

2026 年 1 月 19 日

株式会社大阪取引所

株式会社大阪取引所（以下「当社」といいます。）では、通貨先物の上場について、その要綱を 2025 年 5 月 23 日に公表し、6 月 22 日までの間、広く意見の募集を行いました。ご意見をご提出いただいた皆様におかれましては、本件についての検討にご協力いただき、また、貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

本件に関してお寄せいただいたコメントの概要及びそれに対する当社の考え方は以下をご覧ください。

| 番号 | コメントの内容 | コメントに対する考え方 |
|----|---|--|
| 1 | <ul style="list-style-type: none">・ 通貨先物の上場は大変喜ばしいです。将来的に通貨先物オプションの上場もお願いします。 | <ul style="list-style-type: none">・ 現時点では通貨オプションの上場予定はございませんが、通貨先物上場後に、市場参加者のニーズ等を踏まえつつ検討いたします。 |
| 2 | <ul style="list-style-type: none">・ 「通貨先物取引」は外為法上の事後報告の対象とならないという理解でよいか。・ 新規上場商品のうち、USD/CNH は過去に大きな価格変動が起こる事例があったが、画一的な他商品と同様の 8%/12%/16%のサーキットブレイクが適当であるか、検討の余地がある。（参考として SGX の同種の商品では、価格リミットの設定がなされていない） | <ul style="list-style-type: none">・ 通貨先物取引は差金決済型の「市場デリバティブ取引」であるため、外為法上の「金融指標等先物契約」に該当し、事後報告の対象とはならないと考えられます。・ 誤発注等による過度な値動きを抑制する観点から、サーキットブレーカーは必要とのご意見を市場関係者よりいただいております。そのうえで、制限値幅の設定においては、必要以上に価格変動を抑止することがないよう商品特性を考慮しつつ、制度上の分かりやすさも考慮したうえで設定しておりますが、いずれの通貨ペアにつきましても、過去の価格変動データから十分な値幅を確保できていると考えております。 |

提出者：1＝個人、2＝FIA ジャパン

以 上